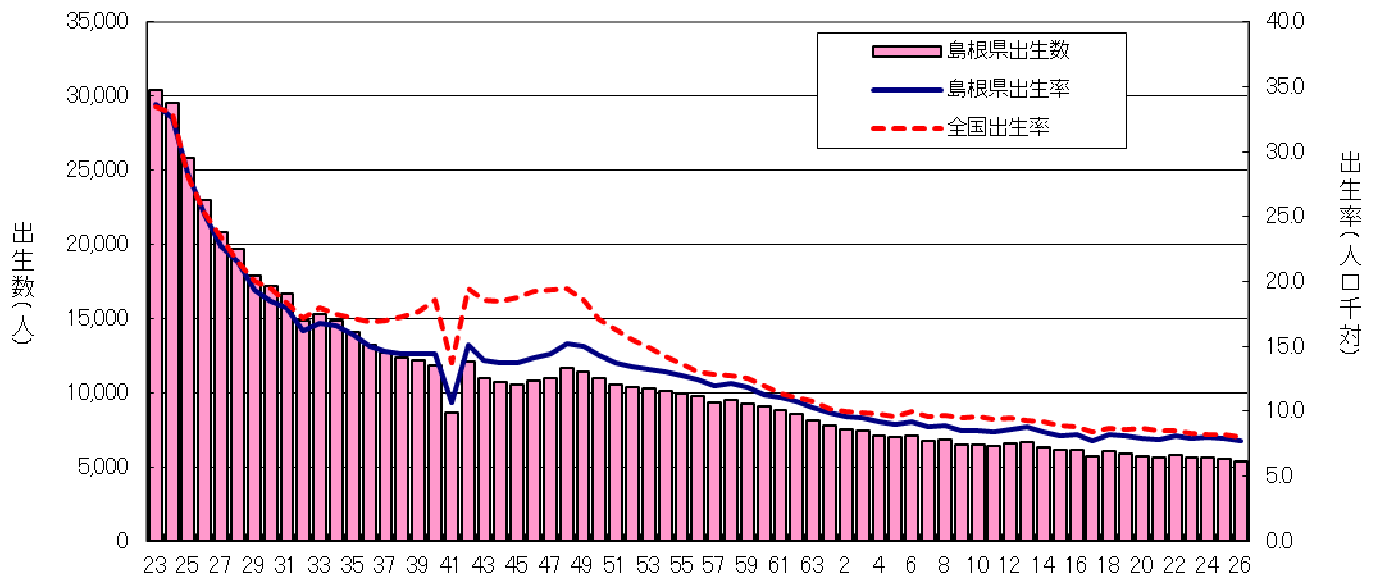


2 出生

(1) 出生数・出生率

平成 26 年の出生数は 5,359 人で、前年の 5,534 人から 175 人減少し、出生率（人口千対）は 7.7（全国第 25 位）で、前年の 7.9 を 0.2 下回った。出生数、出生率ともに昭和 46～49 年の第 2 次ベビーブーム以降、ゆるやかな減少傾向が続いている（図 1）。

図 1 出生数・出生率（人口千対）の年次推移



出生数を母の年齢（5 歳階級）別にみると、20～39 歳の各階級では前年より減少したものの、40～44 歳では増加した（表 2）。

表 2 母の年齢（5 歳階級）別にみた出生数

母の年齢	出生数				対前年増減		
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	24年－23年	25年－24年	26年－25年
総数	5,582	5,585	5,534	5,359	3	△ 51	△ 175
～14歳	1	－	－	1	△ 1	－	1
15～19	62	58	62	69	△ 4	4	7
20～24	654	600	524	471	△ 54	△ 76	△ 53
25～29	1,672	1,687	1,681	1,659	15	△ 6	△ 22
30～34	1,958	1,906	1,961	1,858	△ 52	55	△ 103
35～39	1,075	1,124	1,113	1,055	49	△ 11	△ 58
40～44	160	208	190	238	48	△ 18	48
45～49	－	2	3	8	2	1	5
50歳以上	－	－	－	－	－	－	－

出生順位別にみると、平成 26 年は第 1 子から第 3 子全ての出生数が減少した（表 3）。

表 3 出生順位別にみた出生数の年次推移

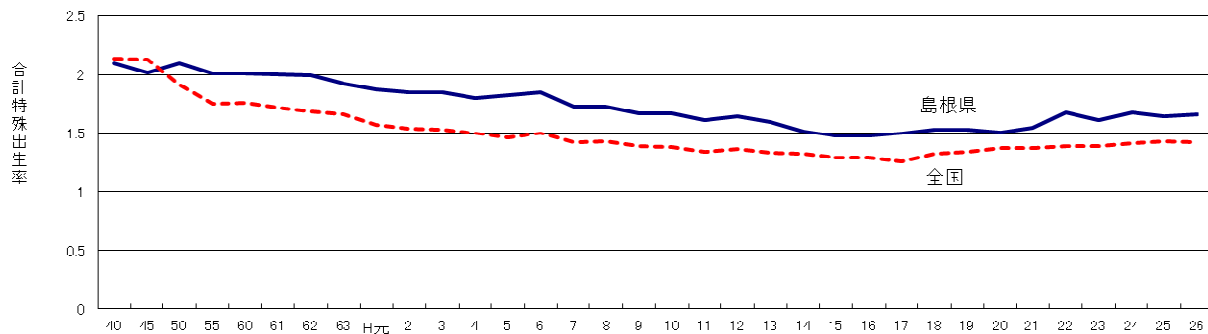
出生順位	出生数				対前年増減		
	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	24年－23年	25年－24年	26年－25年
総数	5,582	5,585	5,534	5,359	3	△ 51	△ 175
第1子	2,376	2,379	2,331	2,319	3	△ 48	△ 12
第2子	1,938	1,978	1,981	1,940	40	3	△ 41
第3子以上	1,268	1,228	1,222	1,100	△ 40	△ 6	△ 122

（2）合計特殊出生率

平成 26 年の合計特殊出生率は 1.66 であった。全国と比較すると、昭和 50 年以降一貫して島根県が上回っており、平成 26 年の順位は全国第 3 位である（図 2）。

なお、合計特殊出生率の算定の基礎となる年齢 5 歳階級別女子人口については、平成 22 年などの国勢調査年は日本人人口を、その他の年は総務省推計人口（総人口）を使用しているため、数値の比較においては注意を要する。

図 2 合計特殊出生率の年次推移



年齢（5歳階級）別合計特殊出生率の昭和45年以降の推移を見ると、年により多少の増減があるものの、概ね20歳代では低下傾向、30歳代では上昇傾向にある。平成26年は20～24歳、35～39歳で低下し、25～34歳の各階級および40～44歳で上昇した。（図3）。

図3 合計特殊出生率の年次推移【年齢階級別内訳】

